

令和4(2022)年度 看護学校関係者評価結果

I. 2022年度 学校関係者評価諮問委員会

1. 学校関係者評価諮問委員

元 島根県立大学大学院 看護研究科看護栄養学部教授
 浜田医療センター附属看護学校 非常勤講師 ・ 卒業生
 浜田市健康福祉部 健康医療対策課 課長
 浜田医療センター 看護部長

2. 学校職員

独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター附属看護学校
 学校長
 教育主事
 学科調整者
 実習調整者

3. 開催日：令和4年12月21日（水） 時間：10：30～12：00

II. 評価結果

1. 評価基準

- 「4」：大いに達成できている （大いに成果が見られる）
- 「3」：達成できている （成果が見られる）
- 「2」：あまり達成できていない （あまり成果が見られていない）
- 「1」：まったく達成できていない （全く成果が見られていない）

2. 結果

1. 主体的に学ぶ力を育てる学習環境の充実・整備

評価項目（運営目標）	2022年度 諮問委員評価					2021年度
	A	B	C	D	平均	自己評価
1) 学生の「わかる・できる・やってみよう」を支援する授業（講義・実習）の工夫	4	4	3	3	3.5	3.3
2) 各学年の学習状況、学生個々に合わせた学習支援体制づくり	3	3	3	3	3.0	3.2
3) 学科・実習委員会、学年間、ほか担当グループ間の連携を計画的に行い、教員全体が情報を共有し、組織的・効果的に学校運営をする	3	3	3	3	3.0	3.1
4) 自己学習を支援する教材・教具・図書・情報科学室・実習室ほかハード面を整える	3	3	3	3	3.0	3.3
5) 上記内容に取り組みながら第5次カリキュラム改正（2022年施行）の課題に取り組み申請する	4	4	4	4	4.0	4.0

1) 学生の「わかる・出来る・やってみよう」を支援する授業の工夫

コロナ禍が続き授業や実習もままならず教育方法が制限されたなか、感染予防を徹底しながらの授業や行事、特に看護技術などの実践的な授業や実習において、目標とする「わかる・できる・やってみよう」を支援する授業の工夫として、科目担当外の複数の教員が協力し技術演習、技術試験に参加し、少人数グループワークを取り入れ「わかる」体験が出来るような色々な工夫は、学生から好評価を得られており評価できる。

ただ、オンライン授業は講師として私も体験したが、学生の反応が把握しづらく一方通行になりがちで、学生の主体性を育む授業方法としては難しく、出来るだけ対面授業が出来るような工夫が期待される。オンラインでの講義は、質疑が難しいことや、意思疎通が困難なことが、弊害として挙げられており、対面とオンラインのそれぞれの良さを生かしたバランスを今後、検討していただきたい。

また、「三校合同トライアル講義」を実践されているが、新たな取り組みとして効果的な教育方法になるよう実践評価を

期待したい。

2) 各学年の学習状況、学生個々に合わせた学習支援体制づくり

各学年が教育目標に沿って、具体的な取り組み工夫と客観的な評価で振り返っていることは高く評価できる。国家試験対策、看護研究、研究指導にチューター制を導入し、学生と教員の組み合わせにも個別性を踏まえた配慮がされている。

一年次は、基礎学力の定着のための教育方法の工夫としてチューター制の見直しと導入についての課題、学年が上がるにつれて学生の主体性や、やる気を支援する取り組みの工夫として臨床指導者を取り込んでいる点も今後さらに継続して欲しい。しかし、チューター制についてねらいや役割は何かが見えにくい。これまでの指導との違いを明らかにするなど明確な説明や評価が必要である。

3) 学科・実習委員会、学年間、ほか担当グループ間の連携を計画的に行い、教員全体が情報を共有し、組織的・効果的に学校運営をする

会議のスリム化を目標とする中で、各会議の内容を検討され情報交換がスムーズに出来るようになったことは評価できる。委員会のもち方を工夫し、会議の活性化や教員の心理的負担感の軽減などが生み出されており、改革が良い方向にすすめられている。学生以上に教職員の方が十分に情報共有できて初めて環境が整うと考えるため、特に学年間での認識が同じであることが大切なのでそのあたりの改善を期待する。

4) 自己学習を支援する教材・教具・図書・情報科学室・実習室ほかハード面を整える

学生の学習支援をする環境の一つとして図書室の果たす役割は大きい。ただ、インターネットで効率よく情報が得られるためか、活用状況は芳しくないようである。図書室は、アクセスのよさ、快適に学べる空間、主体的学習を支援する空間であることが求められるが、限られた教職員数でいかにその環境を作るか今後の課題として期待したい。自己学習を支援する環境として、図書の充実や視聴覚教材の更新について必要性が述べられているが、学生の使用状況を評価し、どのような学習教材が有効なのか検討される必要がある。

時代の流れの中で、オンライン講義が進み、多くの授業を映像化し、その特性を活かし、再度の視聴による復習等に活用されていることも重要なことである。

学生の個人負担を軽減するため実習用紙コピーの個人負担の廃止、評価対象レポートの管理・不正防止のため、鍵付きの提出ボックスの設置等は評価できる。

5) 上記内容に取り組みながら第5次カリキュラム改正（2022年施行）の課題に取り組み申請する

カリキュラム改正による教育内容の検討、申請手続きが円滑に進められ承認を得られた。カリキュラム改正について他校との連携をされたことで、「3校合同講義」トライアルの実施、授業マニュアルの作成など本格的実施にむけて準備されている。学生にとっても他校の教員や学生から刺激を受ける機会となると考える。ぜひ、継続していけるよう体制を整えていただき、呉、岩国、浜田三校の今後の継続的な連携を期待したい。

2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成

評価項目（運営目標）	2022年度 諮問委員評価					2021年度 自己評価
	A	B	C	D	平均	
1) 浜田の地域医療・看護に興味関心が持てるような学習支援	4	4	4	4	4.0	3.7
2) 看護部、実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質向上をはかる。	3	3	3	4	3.3	3.4
3) 入学時1年次から一貫した国家試験対策 看護師国家試験合格率 目標：100%（NHO平均以上）	3	2	2	3	2.5	2.0
4) 3年間で順調に単位を修得できる学生の育成 目標：90%以上（1年生：44/48 2年生：31/34 3年生：35/38）	3	3	3	3	3.0	3.5
5) 浜田医療センターをはじめとする国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成する。 （目標値 母体病院：65%以上 NHO：70%以上 県内：80%以上 西部：65%以上）	3	4	4	4	3.8	3.4

1) 浜田の地域医療・看護に興味関心が持てるような学習支援

2018年「へき地での地域体験を通じた弥栄診療所の見学」研修、2019年「へき地の地域包括ケアシステムについて知り考えるワークショップ」学校祭企画が、「地域包括ケアシステムの中での高齢者の地域の暮らしを知る」ことを目的とした実習へと発展し、2022年「老年看護学実習Ⅰ」、さらに新カリキュラムにおいて地域・在宅看護論において展開されるようになった。このような授業が実現したのは教員の熱意とこうした教育に対する地域や時代のニーズとマッチしたためと考える。地域や行政との連携を図りながら地域密着型教育が発展し、地域医療の担い手としての意識づけを進められることを期待する。

中山間地域の生活及び医療や看護の実際を体験することは、看護師になってからも大切なことであり、特に新カリキュラムに地域・在宅看護論に欠かせないことなので力を入れていただきたい。老年看護学実習で中山間地域の生活や医療・看護の実際を学ぶ教育方法の定着ができ、さらに、地域で活躍する看護師の育成についても検討を拡げて取り組みを始めていることは高く評価できる。地域を取り込んだ浜田ならではの教育の工夫で今後も維持発展が期待できる。弥栄診療所での老年看護学実習は、中山間地域の暮らしと医療の現状と実態を知り、地域医療について学ぶ良い機会だと思うので、ぜひ今後も継続し、可能であれば拡充をしていただければ地域医療に携わる者として大変嬉しい。

また、国立病院総合医学会での発表も高い評価を得られており、さらに全国の看護学校に取り組みされることが期待される。浜田探検ツアーも興味深い。

2) 看護部、実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質向上を図る

学生の教育環境としての臨床現場の持つ意味は大きい。以前から臨床指導者とタイアップして教育に取り組まれていることは評価できる。現場で看護に従事する看護師の質を上げていくことは学校の大切な役割の一つである。今後も指導者のニーズを把握しながら、学生の学びの環境を支援し続けていただきたい。

実習施設の指導者に対してアンケートを実施し、教育ニーズを測定、意見交換などを通して、指導者側が学生の学年の違い（レディネス）を把握しないままに指導に当たりやすいことが明らかになったと説明があった。この問題は頻繁に起こる問題と考える。実習目標や学生のレディネスにあわせた指導のために、学生参加型の指導者会議の開催などの工夫がされており、学生に対する関心を高める効果をもたらしている。病棟スタッフとの連携についても示されており、病棟全体で学生を育てていく雰囲気さらに高まれば、ひいては新人指導などにも効果があると考えられる。

実習施設である母体病院の指導者にも課題は大いにあると感じている。実習要項をしっかりと把握して学生指導の対応をしていけるようにしたい。

3) 入学時1年次から一貫した国家試験対策

一年次から基礎学力を積み上げる工夫を考えられているが、教員同士の縦横の連携を深め、教員の専門分野の活用をして学生の学習の支援を継続されることを期待している。

看護師国家試験合格率については、既にあらゆる対策を講じておられることは理解した。国家試験対策には苦慮されていると思うが、3年間の学習の最終目標であり、合格することでその努力が報われる重要な試験であるため、100%目指して、可能であれば重点的に個別指導を行うなど何とか全員合格を目指して学生に寄り添った指導をお願いしたい。

4) 3年間で順調に単位を修得できる学生の育成

昨年度は実習が始まってから休学・退学者が出ていたが、関係者間で躓いている学生の情報を共有し、丁寧なサポートがされた結果、卒業率の上昇、休学や退学がゼロとなるなど教員や指導者のケアリングの成果と考える。実習に躓く学生の支援を教員、指導者と連携して乗り越えられるよう今後も継続を期待している。

現在、非常に打たれ弱い人たちが増えており、指導方法も難しさを感じている。学生時代から少しずつ積み重ねていき、パワフルな看護師を育成したい。未来を見据えた学習や学生の育成をお願いしたい。

5) 浜田医療センターをはじめとする国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成する

中国四国の気候病院の採用状況の厳しい中、ほぼ目標は達成できている。県内・市内では医療従事者不足が続く中、浜田医療センターへの就職者数の確保をお願いしたい。

3. 学ぶ意欲のある学生の確保

評価項目 (運営目標)	2022年度 諮問委員評価					2021年度
	A	B	C	D	平均	自己評価
1) 受験生の確保 (目標: 受験者100名以上) 【2020年度 特推: 10・一推: 25・社: 2 一般: 45 82名】	4	4	4	3	3.8	3.6
2) 高等学校ほか効果的なPR活動の実施	3	4	4	4	3.8	3.6
3) ホームページのリニューアルと効果的な運用	4	4	3	3	3.5	3.4

1) 受験生の確保

2) 高等学校ほか効果的なPR活動

3) ホームページのリニューアルと効果的な運用

看護系の4年制大学が増えている社会のなかで、現状の広報活動（医療センター広報誌掲載、学校訪問、ホームページの活用）の継続と改善に取り組みされており、専門学校として入学生の確保に向けてさまざまな媒体を用いて工夫されている。社会人枠の拡大、高校訪問の拡大などにより受験生の確保および入学生の充足ができています。少子化が進み高校生自体の全体数が減少する中でも県内では看護系への志望者は一定数ある。入試制度や社会人枠の拡大などについて、さまざまな機会を活かして積極的なPRが必要と思う。

タイムリーにホームページを更新され、高校や小学校にまで出向き看護師への興味をもてる努力をされている。ホームページも具体的に学生の1日の流れが掲載されていること、学生アパートの紹介等、分かり易い内容である。ただ、もう少し学生生活の内容、実際の行事の具体的な紹介等があると、より学生に興味を湧きやすいか。受験生を確保することが先決で、入学後に育成できればと考える。

浜田図書館にて学校紹介のパネル展示は、高校生にも反響があるようで評価できる。さらに、浜田市の広報誌にも掲載の検討をされているので、浜田の看護学校としての存在感を市民にも啓発できる機会になると期待している。少子化が進むなか、受験生を確保する事は、非常に大変な事と認識をしている。浜田市としても、医療従事者の確保のため浜田医療センター附属看護学校の学生確保は、大変重要なことと認識しているので、浜田市広報誌の活用など、協力できることをさせていただきたい。

母体病院も魅力ある実習場所となるよう、私たちも看護の質及びサービスの向上に努めていきたい。

4. 教員の質の向上と職員がやりがいをもって働けるワークライフバランスの促進

評価項目 (運営目標)	2022年度 諮問委員評価					2021年度
	A	B	C	D	平均	自己評価
1) 看護教育の質向上のために研究活動、自己研鑽がしやすい環境づくり	3	3	4	3	3.3	3.3
①教員の授業を中心に教員が相互に授業参加する体制づくり						
②教育の質の向上のために自己研鑽したい分野の学会・勉強会の参加 教員一人各1回 ③研究に必要な文献検索環境・書籍ほか研究活動をする環境の充実						
2) 研究成果・業績	4	3	3	3	3.3	3.0
①第三者参加の研究授業の実施 1回/年以上						
②学会での研究発表の推進 紀要雑誌への投稿 3題以上 ③教員研究会の効果的な活用						
3) 働きやすい職場環境づくり	3	3	3	4	3.3	3.2
①年5日以上1日単位の年休取得						
②研究時間・授業準備時間が時間内でとれるような業務調整 ③業務運営マニュアルの見直し整備						

1) 看護教員の質向上のための研究活動、自己研鑽がしやすい環境づくり

カリキュラム改正に向けた取り組みを進めている中で、教員の質を高める研修などの受講の工夫に取り組まれている。

島根県看護教員継続研修、NH0 領域別グループでの研究会などの積極的に参加し、教育の質向上に向けて研鑽されている。次年度は新カリキュラムの運用と共に、教育内容の実践評価をしながら、課題としておられる研究に取り組みやすいシステム作りを期待している。

2) 研究成果・業績

限られた教職員数、時間の中でよく取り組まれている。国立病院機構総合医学会での発表において優秀賞を受賞されたことは高く評価するものである。今後とも、研究としてまとめていかれることを期待したい。

また、国立病院総合医学会での「優秀賞」の受賞、「医療の広場」への掲載などは、教員の励みになるばかりでなく、学生にも刺激を与えるものとする。

3) 働きやすい職場環境づくり

各種専門学校の教員は、直接に主たる教育以外に学校運営に関して多岐にわたる業務を引き受け、本来の業務の準備等に時間が不足するなどのジレンマを抱えやすい。運営面での会議等も効率化が進められており、会議の議事録作成を教務事務に移行したことで、喫緊の課題である会議のスリム化と教員の負担の軽減につながったことは評価できる。教員の本来の学生の教育に時間を費やすことができることは教員のやりがいにもなる。また、教員同士のコミュニケーションを大切にされていることは、心の健康を保つばかりでなく、新人教員の育成にもつながっていくので大切にしていきたい。会議録の作成や試験監督の実施に教務事務の協力を得ることができたことは管理者のすぐれた調整力の賜物と考える。日頃から円滑なコミュニケーションが図られ、相互に協力できる関係性があり、緊急時にも対応できている点は安心して働くことができる職場となっていると考える。

現在、働き方改革が進められており、効率化による生産性の向上、また有給休暇の取得による心身のリフレッシュが勧められている。業務多忙のため、超過勤務や有給休暇等の休暇の取得がなかなかできないこともあろうかと思うが、引き続き、職場でのコミュニケーションを大切に、他部署との連携による業務の効率化を進め、業務の質の向上と、やりがいがある職場になるよう取り組んでいただきたい。

NH0 の看護学校が減っていく中で、教職員の方たちのモチベーション維持も簡単でない。少ない人数で勤務することは、日ごろからコミュニケーションをはかり、働きやすい状況を作る必要がある。さらに、教員のスケジュール管理の見直しなど、教員の働きやすい環境づくりへの取り組みは今後も継続を期待している。